

企業ニュース レンゴー

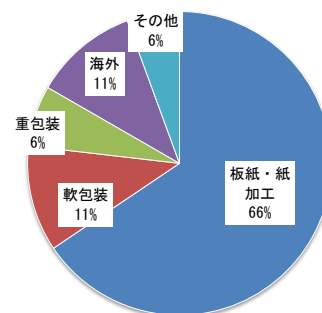
(東証1部：3941) <https://www.rengo.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

段ボール国内最大手

1909年、三盛舎として設立。日本で初めて段ボール事業を創始。1920年、聯合紙器を設立。1972年現社名に改称した。原紙(板紙)、シートから製品まで一貫製造する国内最大手メーカー。ロール状の原紙から、ライナー(表面の平らな原紙)と中芯(中にある波状の原紙)を作り張り合わせたものがシートで、印刷、型抜きされ製品となる。段ボールの他様々な包装資材なども製造している。段ボールは、各種運搬用途などで活用されるほか、開梱後そのまま陳列可能な高機能品も登場している。同製品は販売現場での省力化に寄与している。段ボールの原料は段ボール古紙(もともとはパルプから作られるが)で、現在はほぼ100%リサイクルされ新たな段ボールに生まれ変わる。昨年度に続き、18年11月より段ボール原紙の値上げ(8円/kg以上)を行った。

◇18.3期売上高構成比



(出所) レンゴー資料よりCAM作成

原紙・製品価格引き上げが業績に貢献

19.3期・第3四半期(4-12月)の連結業績は売上高が4,956億円、前年同期比9%増、営業利益が210億円、同52%増。原燃料価格の上昇や減価償却費など経費増による減益要因はあったが、国内段ボール価格の上昇や数量増などで大幅増益となった。原料価格は上期には中国での古紙輸入規制により古紙価格が安定的に推移し業績貢献したが、米中貿易摩擦の深刻化などの影響で10-12月期には一転、マイナスインパクトとなり、18年11月には昨年度に続き段ボール原紙の値上げを発表した。海外事業の好調も業績貢献した。

19.3期業績の会社計画は、売上高が6,620億円、前期比9%増、営業利益が230億円、同35%増。値上げ浸透の不透明感から従来予想は据え置かれたが、国内の段ボール需要は堅調に推移し、値上げは浸透している模様。今後も原料価格への影響が大きい古紙の価格推移には注視が必要だが、足元の古紙価格やエネルギー価格は落ち着きを取り戻しており、懸念は低かろう。20.3期は値上げのフル寄与も期待できよう。

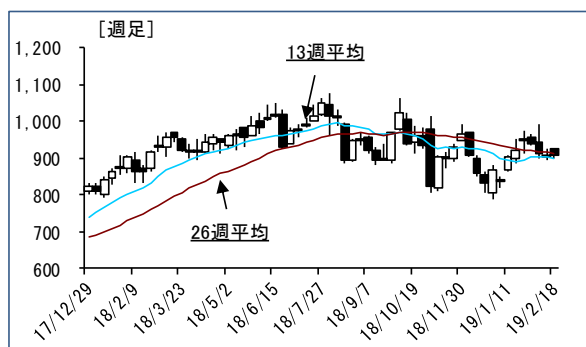
[株価動向・投資判断]

現状PERで15倍台と割高感は乏しい。値上げの浸透と堅調な需要推移により、好調な業績が見込めよう。中期的な成長も期待できる銘柄。

<3941 レンゴー 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
17.3	545,489(2)	23,642(50)	25,214(52)	13,876(41)	56.0	12.00
18.3	605,712(11)	17,082(▲28)	23,168(▲8)	16,622(20)	67.1	12.00
19.3 予	662,000(9)	23,000(35)	25,000(8)	15,000(▲10)	60.6	12.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2019/2/18)	908 円
昨年来高値(高値日)	1,078 円(18/8/2)
同 安値(安値日)	787 円(18/12/25)
予想PER(19.3予)	15.0 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,051.6 円
PBR	0.86 倍
予想配当利回り	1.32 %
(1株当たり配当金12.00円)	
ROE(18.3)	6.8 %
発行済み株式数	27,106 万株